

常磐海岸新報

旬刊月三回六十七日
定價 一月二十錢
廣告料 一行五十錢
發行所 福島縣平町堂前二十一
常磐海岸新報社
印刷人 石井英次郎

植田町に突如電燈料

値下同盟の火の手あがる

郡山地方に旋風の如く巻き捲き痛棒で其の得票にも多大の就いて非常に注目されてお
起つた電燈料値下運動は其影響するものではないかと
後各地に飛火して各電氣事
業者の頭痛の種となつてお
た殊に最近迄で東部電力の
平出張所に對し猛烈なる運
動を開始してゐたる平地方
電燈料値下同盟を解圍して
新たに磐城地方電燈料値下
同盟と改稱し、植田水力電
氣株式會社に猛烈な運動の
火の手を揚げるに到つた
植田水力電氣は元來磐城地
方一般電氣會社と比較して
其の使用料金等も一、二割
の高率を示して居り、電球
引換料丈けでも平地方の十
五錢に對し四十五錢と云ふ
様な實に三倍程の高値を示
して居るのは事實である
此の電燈料値下運動に對し
て社長金成氏は如何なる
見解を有するか知らぬが噂
の如く金成氏が来る衆議院
議員總選舉に立候補者とし
て出首するが如き事ありと
せれば議會解散を見越して居
られる今日此の運動は一大

不景氣風のウツまきに 大賣出しの空景氣

舊年末も後四五日に押し迫
つて平町のあらゆる商店は
一年の計は年末にありとば
かり汗だくになつて廣告に
宣傳に聲をからして一勢に
狂奔してゐるが近來の地方
農村漁村及各炭礦が經濟的
植田水力電氣は元來磐城地
方一般電氣會社と比較して
其の使用料金等も一、二割
の高率を示して居り、電球
引換料丈けでも平地方の十
五錢に對し四十五錢と云ふ
様な實に三倍程の高値を示
して居るのは事實である
此の電燈料値下運動に對し
て社長金成氏は如何なる
見解を有するか知らぬが噂
の如く金成氏が来る衆議院
議員總選舉に立候補者とし
て出首するが如き事ありと
せれば議會解散を見越して居
られる今日此の運動は一大

迎歡投書

平町の撒水自動車殿に一言
申上げます
唐風にたゞられて塵埃巻上
る時、貴郎の尻から出る水
に私共町民はどれ程助けら
れるか知れませんが
だが其の恩を忘れる譯では
ないのですが人間と云ふ奴
は全く勝手なもので瞬間の
感情で嬉しくなつたり癢に
觸つたりする動物なもので

四倉町青年有志 築港期成同盟組織

四倉の盛衰此の問題にあり 猛烈なる期成運動を起せ

漁業を唯一の生命とすこぶる緩慢を極め向其の
する四倉町は他濱漁業の振中に陋劣姑息なるものあり
興に反し年々衰微する傾向に達成の甚だ迂遠な
にありて心ある町民の憂慮るを察知したる青年有志は
せるところなるも當の責任別に町會議員鞭撻の意味に
者たる町會議員は兎角政黨於いて築港期成同盟を組織
争に勢力争に一致點を欠きし飽くまで之れが達成を期
町會を怒號罵詈に綴ると云
ふ始末にて實に飽き足らざ
るものがあつたのである
是れに就いて四倉町の某有
志は語る
實に四倉町の興廢は
漁業の盛衰に因るもので
あつて、漁場に運搬に東
北海岸有意の地勢をしめ
て居り乍ら逐年漁業不振
は漁業資金の欠乏と漁業
家自身の姑息なる營業手
ね、其の癩に觸つた所を一
二書かして貰えせう
寒いビユウ／＼風の吹く此
頃向うから直つしぐらに貴
郎がウナリ聲を立て、走つ
て來ます、道行く人々は右
往左往に避難します、その
時ウツカリして逃遅れるも
のならば腰から下は、ビシ
／＼ですまだ逃げ場所のあ
りません、この時按摩さん
「ヨウ文ちゃんスベル／＼」
「畜生、餓鬼奴等惡戯
しやがつて」とは恐れ入つ
た話 (エヌワイ生)

社告

財界恐慌の原因と その反動作用の一 考察は紙面の都合 上次號に掲載

めてゐる漁業家否一部船
主のみに向つて漁港修築
費の負擔を強請するが如
き姑息手段は産業開發四
倉築港期成で重大問題
に當面して斷じて排除せ
ねばならぬ事である
遅れ驅せ乍ら町會議
員の責任を感ずるところ
となつて漁港修築の陳情
申請に出縣し、之れが運
動に狂奔したる事は町民
の認むるところとなつて
あることなれ共縣費の負
擔大部分をしむる申請に
ては小名濱町大商港實現
の運びにあり、又江名濱
築港追加修築の現在にあ

文藝欄

女給への カフエー

横山香村
俺が此んな詩(歌)を作つたが書くか
らと云つて、決してカフエーに入
りたつてゐる譯ではないのだ
俺は貧乏なんだ、だからカフエー
どころの騒ぎでないのだ
女給を俺は金持の娘さんとは思
はない
貴婦人とか
智識階級とかの女等よ
お前等の眼に虫けらとしか

青春のなやみ

可津夫生
生垣の中からゆるやかに
のどかに洩れて來る音
孤獨な我身の胸を打つ
音の主は人妻か娘か
そしてそのかなづる
曲の名は……想夫戀
ふくよかにモクセイの香が
此の小春のうららかな陽が
孤獨な我身の胸を打つ
音が愛する君ならば
いかに生垣高くとも
いかにいましめ堅くとも
我が行らん御身のもとに
そして語らん運命を
春のうららかな日に